日本語版への序文

わが国の図書館情報学は、公共図書館の専門職員である司書と、学校図書館の専門職員である司書教諭という二つの国家資格取得をめざす学生への教育を軸に展開してきた。そのため、研究よりも教育が重視され、研究にしても、公共図書館や学校図書館の歴史、サービス、運営、利用といったテーマに関心が集中し、他のテーマといってもせいぜいのところ大学図書館や情報組織法関連で、図書館「情報」学とは言っても、非常に狭い範囲での研究と教育に終始しているとの印象がある。

本書第1章で簡単に触れられているが、図書館情報学はもともと欧米由来の研究・実践領域で、図書館の管理運営法に起源を持つものの、対象領域はもっと広い。情報を中心に置く図書館「情報」学のはじまりは19世紀の末で、「ドキュメンテーション」と呼ばれる、組織を超えた文献情報活用の可能性を探る分野が発展し、化学や医学といった専門領域での技術開発や制度整備が行われた。特に、第二次世界大戦後は、コンピュータを中心とする技術の急速な発展と科学技術政策の推進などにより、科学技術分野の文献情報流通をデジタル情報にまで広げ、多様な情報の活用法とそれに伴う諸問題を、より広い社会的文脈の中でとらえ直そうとする研究・実践がさかんになった。そうして、文献情報を扱うという点で図書館学と親和性の高い分野、本書で言うところの情報学が誕生した。

図書館情報学は、こうしたドキュメンテーション由来の情報学が、図書館学と本質的には同じ対象と課題を扱っている、との認識から、両者を統一的にとらえることばとして1960年代に登場した。図書館学はもっぱら図書館を扱うという点で異なる面があるが、本書で扱う情報学は、図書館に関わる研究・実践を含んでいるという点で、図書館情報学と実質的に同じものであると考えてよい。

わが国の場合、図書館学がもっぱら公共図書館や学校図書館と強く結びついていて、情報学に展開する契機を十分に持たなかった上に、コンピュータ科学

由来の「情報科学」やマスコミュニケーション研究由来の「社会情報学」などの他分野の語の方が一般に知られているため、原語の information science を直訳して「情報学」と言っても、それが図書館情報学由来の語だということを理解できる人は少ないであろう。本書でも「情報学」と「図書館情報学」の語が混在しているが、両者は実質的に同じことであると思っていただいてよい。

21 世紀に入り、欧米の情報学は一段の飛躍を遂げ、新たな段階に入ったように見える。インターネットが世界のインフラとなり、誰もがインターネット上で情報を発信し、収集できる環境が登場したことによって、組織を超えた情報流通の問題を扱ってきた図書館情報学は、その対象範囲を拡張し、インターネット上の情報の発信、蓄積、検索、利用等に関わる技術、制度、倫理、情報リテラシー等の問題も、新たに対象範囲に含めるようになった。それによって、図書館情報学の新たな可能性が拓けてきたのと同時に、本書第 1 章で述べられているように、他領域と重なる部分が大きくなったため、領域の輪郭を描くのが難しくなっている。

インターネット上のサービスが次々に現れては消えてゆくように、欧米の図書館情報学は急激に姿を変えてきているように見える。図書館情報学を基盤に据えつつ、コンピュータ科学や経営学等と融合することにより、新領域の開拓をめざす i スクールと呼ばれる大学院も登場した。

伝統的な司書・司書教諭養成に力点を置くわが国の図書館情報学は、こうした欧米の動向と断片的につながっているだけで、対応しようとしているようには見えない。自国の課題に対処するのを基本とすることに異論はないが、世界のあらゆる地域と瞬時につながることができるような世界の中で、国際的な図書館情報学の動向をきちんと理解・把握しておくことは、わが国図書館情報学の今後の展開を考える上で重要であろう。

そのような問題意識の下で、欧米図書館情報学の動向を概観するよい本はないかと探していたときに出会ったのが本書である。本書の著者ボーデン・ロビンソンの両教授は、英国において（図書館）情報学研究をリードしてきたシティ大学ロンドンの所属であり、同大学での教育の実績を踏まえて、欧米で展開されている情報学の輪郭、歴史、基礎概念、諸領域を、手際よく、わかりやすく概観しており、正に欧米図書館情報学の最良の概説書である。

シティ大学情報学大学院出身の塩崎亮君という最適の訳者を得て、本書がわが国図書館情報学分野の研究者、学生、大学院生だけでなく、図書館で働く人々、他分野の方や市民にも、欧米図書館情報学を紹介する本として、広く読まれることを期待する。

田村　俊作

図書館情報学概論

目　次

日本語版への序文　i
序　文　xi
略語一覧　xiii

第1章　情報学とは何か：学問分野・専門職……1
はじめに　2／情報学の特性　3／情報学とはどのような類の学問分野なのか　4／構成要素と基本概念　6／他の情報関連領域　6／情報学の独自性　9／情報学の歴史　11／まとめ　15／主要文献　15／参考文献　16

第2章　情報の歴史：ドキュメントを巡って……20
はじめに　20／情報から見た時代区分？　23／前史・古代　23／古代ギリシャ・ローマ時代と中世　27／印刷の時代　29／19世紀　31／20世紀　33／まとめ　34／主要文献　35／参考文献　36

第3章　情報学の哲学・パラダイム……39
はじめに　39／哲学と情報学　41／哲学的立場　42／パラダイムと転回　44／哲学者と情報学　51／カール・ポパーと客観的認識論　54／ジェシー・シェラと社会認識論　56／ルチアーノ・フロリディと情報の哲学　58／まとめ　61／主要文献　61／参考文献　62

第4章　情報学の基本概念……68
はじめに　68／情報と知識　69／情報：物理的、生物的、社会的　71／情報学における情報　78／情報学における知識　80／ドキュメント　83／コレクション　87／適合性とアバウトネス　89／情報の利用・利用者　92／まとめ　93／主要文献　94／参考文献　94

第5章　領域分析 …… 100
はじめに　100／情報学理論としての領域分析　101／領域とは何か　102／領域分析の観点　104／資料案内　104／情報組織化ツール　105／領域分析の実務上の価値　111／領域分析の例　112／領域分析と主題専門家　112／まとめ　114／主要文献　114／参考文献　115

第6章　情報の組織化 …… 117
はじめに　117／統制語彙とファセット分析　119／ターミノロジー（専門用語集）　119／メタデータ　121／情報資源の記述と目録作成　125／オントロジー　129／系統的な語彙体系：分類とタクソノミー　130／アルファベット順の語彙：件名標目とシソーラス　137／抄録　140／索引とタグ　141／まとめ　144／主要文献　145／参考文献　145

第7章　情報技術：作成・流通・検索 …… 150
はじめに　150／情報技術とは何か　151／デジタル技術　152／ネットワーク　157／モバイル機器とその普及　159／ソフトウェア　160／コンピュータとの相互作用　163／情報システム：分析、アーキテクチャ、設計　164／アプリケーション　166／まとめ　184／主要文献　185／参考文献　185

第8章　計量情報学 …… 192
はじめに　192／計量情報学の発展過程　194／どれくらいの量の情報があるのか？　198／計量情報学の主な法則　199／ネットワーク理論　204／計量情報学の活用　205／まとめ　212／主要文献　213／参考文献　213

第 9 章　情報行動 …… 219
はじめに　219 ／情報行動とは何か　220 ／情報行動研究の起源と発展　223 ／理論とモデル　225 ／情報行動研究の手法　234 ／情報行動の調査事例　234 ／集団の情報行動　236 ／個人の情報行動スタイル　238 ／まとめ：結局、何が分かっているのか？　240 ／主要文献　241 ／参考文献　242

第 10 章　情報の流通：変容する環境 …… 247
はじめに　247 ／概念枠組み　248 ／変容する情報環境　251 ／印刷世界のデジタル化　252 ／変化する経済モデル　256 ／オープンアクセスとリポジトリ　257 ／コミュニケーションの新たな形態　260 ／研究活動と学問の新たな形態　262 ／情報空間・場所　263 ／まとめ　264 ／主要文献　265 ／参考文献　265

第 11 章　情報社会 …… 270
はじめに　270 ／情報社会とは何か　271 ／情報社会の枠組み　274 ／情報社会のインフラ　283 ／情報社会に内在する問題と格差　285 ／まとめ　288 ／主要文献　289 ／参考文献　289

第 12 章　情報管理・情報政策 …… 294
はじめに　295 ／情報管理の基本　296 ／情報管理の文脈　299 ／情報ガバナンスと情報リスク　310 ／情報政策と情報戦略　311 ／情報監査と情報マッピング　317 ／情報の評価　318 ／創造とイノベーション　325 ／まとめ　327 ／主要文献　328 ／参考文献　328

第 13 章　デジタルリテラシー …… 337
はじめに　337 ／情報リテラシーとコンピュータリテラシー　339 ／情報リテラシーを備えた人　341 ／デジタルリテラシーの概念　345 ／デジタルリテラシーのモデル　348 ／デジタルリテラシーの重要

性　350／デジタルリテラシーの振興　351／まとめ　353／主要文献　354／参考文献　354

第 14 章　情報学の調査研究法：何について、どのように？……357

はじめに　357／情報学研究のスタイル　359／調査研究手法の概要　360／研究と実務　361／情報学の調査研究手法　363／調査研究手法：社会調査　364／情報学における社会調査の事例　367／調査研究手法：実験・評価・観察　368／情報学における実験・評価・観察の事例　371／調査研究手法：机上調査　373／情報学における机上調査手法の事例　375／サンプリング　377／情報学の研究倫理　379／研究成果の探索と評価　380／まとめ　381／主要文献　383／参考文献　383

第 15 章　情報学の未来……386

はじめに　386／予測と予言　387／変化の要因　390／情報専門職と情報学の未来観　391／情報学の研究テーマ　394／情報学の未来　397／まとめ　398／主要文献　399／参考文献　399

補足情報　402
あとがき　405
索　　引　417